

●今月の断酒表彰

N Kさん	吹田支部	断酒 18年
N Tさん	吹田支部	断酒 14年
H Mさん	吹田支部	断酒 1年
M Nさん	南千里支部	断酒 23年



2023 (令和5) 年5月1日発行 No.243
編集・発行 事務局・広報部
<https://kz925.com/dansyu>

断酒表彰おめでとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。

断酒に思う 136

吹田支部・N T

いつものようにアルバイトを20時の終え、私は行きつけのショットバーに行きます。3~4時間ほどめいっぱい飲んで、さあ帰ろうかあとと思うと雨が降っていました。

マスターから傘を借りて、自転車で自宅へ。マスターは「大丈夫?」と聞かれますが、私は「大丈夫、だいじょうぶ」と返事をします。

しばらくは自転車で走れたのですが、案の定ひっくり返ります。前から落ちて、あごから出血。さっきまで飲んでいたお店に電話をすると、マスターが救急箱をもって、看護師をされている奥さんと一緒に駆けつけてくれました。あごからの出血量が多くて、縫った方が良くかもということになりました。

マスターの車で奥さんが勤務する病院まで運んでもらい、その上当直の先生に「姪っ子だから傷が残らないように丁寧に縫ってあげて」と、一言かけていただくなど気遣っていただきました。

私はこんなはずじゃなかったのに、お二人にまで迷惑をかけてしまい恐縮していましたが、酔いが覚めた頭の一部で「こんな時こそ飲み足したい」と思っている私でした。

結局午前3時頃、自宅まで車で送っていただきました。眠っている両親を起こさないように、そっと家に入り、そのまま布団にもぐり込みました。

朝になって、「今日も遅かったやん!」「あごはどうしたん?」と聞かれ、説明すると母が「今夜菓子折り持って謝りに行くわ!」と言うのです。私はカッコ悪いやら恥ずかしいやらで、

「自分で行くから!」と言っても一歩も引きさがってくれません。

今だから思うのですが、飲み過ぎた私が一番悪いし、自

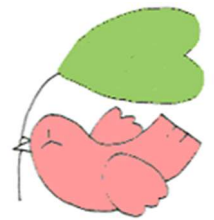
転車も置いて帰ってれば、みんなに迷惑をかけることはなかったと……。

縫ったのはいいのですが、毎日病院に行かなくてはならず、自分でもうんざりでした。おまけにあごには大きなバンソウコウが張られています。みんなからは「あごはどうしたん?」と聞かれます。

私は35歳のときに精神科の主治医から「今日からお酒は止めてください!」「そのためには断酒会に行かなければいけませんよ!」と言われていました。

現在は断酒会のみなさんと共に断酒継続に励んでいますが、最初は飲酒欲求が強く、とてもしんどい断酒でした。それも例会出席のおかげで、いつの間にか飲酒欲求も薄らいできたと思います。

ですが、何年止めていても一杯に手を出せば元の木阿弥になってしまいます。なので、これからもみなさんの輪の中で、今日一日断酒を続けていきます。



断酒会規範

九 断酒会は会費によって運営される。但し補助金、善意の寄附金等を受けることができる。

断酒会は酒害者による酒害者のための組織であるという認識が、どんなに重要なものであるかをわれわれは知った。この言葉の持つもっとも重いものは、断酒会は断酒会員の主体性のある運営によるものでなければならないということである。 <中略>

断酒会は自助集団だから、自分に必要な金は自分が支払わなければならないといってしまうまでも、会費を支払うことはわれわれにとって、必要不可欠な断酒法のひとつである。

もし断酒会が、国や地方自治体の補助金や個人の寄附金のみで運営されるようになったら、いったいどん



な事態を招くことになるだろうか。

われわれが飲酒時代に身につけた依存的傾向は少しも改善されないだろう。従って、自立心の回復もないだろう。他人まかせの会員たちばかりになり、会はまるで活気のないものになるだろう。ついには、われわれは断酒することの意味もわからなくなり、会の崩壊につながることは必至である。

断酒会の主な活動内容は、例会、研修会、記念大会、ブロック大会、全国大会等の開催。機関誌、ポスター、パンフレット等の製作。その他、酒害相談活動や酒害啓発活動のための様々な行事等がある。

このうちの大半は、会費や参加料等で賄われているが、断酒会は経済的に貧しい組織であるので、会員以外のために使う費用、特に酒害啓発活動に必要とする費用には頭を悩ませている。費用の関係でほとんど行っていない断酒会もある。われわれの奉仕活動にも経済的な限界がある。

そうしたとき、行政の補助金や、断酒会を利用する気のまったくない人たちの寄附金は、活動を活発にする。自助集団でありながら、補助金、寄附金を受けることを認めている理由である。

補助金、寄附金がなくても、断酒会が経済的な理由で崩壊することはあり得ない。しかし、われわれはもう少し経済的なゆとりを持つことで、広く社会に酒害の理解を求める活動を拡大することができる。

みんなの広場

お酒の「広告」の移り変わり

「酒は百薬の長」の様に消費を促すキャッチコピーに類する物に「酒林」＝「杉玉」がある。

酒屋の軒下にある杉玉(酒林)は、杉の葉を球状に刈り込んだもので造り

酒屋で新酒が出来た事を知らせるシンボリックなもので室町時代から伝わる酒屋の看板。

新酒の時は青々として酒のフレッシュさを、時間が経つにつれ枯れてゆき酒の熟成を示した。



看板や暖簾は古来よりある広告手段で不特定多数に向けて行う「宣伝」は江戸後期より活発に行われる。18世紀半ばに「下り酒」といわれた酒が酒処の灘、伊丹、池田から樽廻船で江戸



に送られ庶民文化の爛熟と共に経済が発達し酒の消費も増えていくにつれて商品の競争と差別化が生まれてきた。偽物も多く出回ったので銘柄の識別のため四斗樽に商品ロゴを菰に商標を刷込んで差別化した。

ロゴ入りの四斗菰樽は錦絵の中や人々の集まる場所などに積み上げられ近代につながるブランド戦略の広告活動が江戸時代から始まる。

明治・大正期に入ると浮世絵からつながる「美人画ポスター」へと受け継がれ有名画家の描く美人画が酒のポスター広告となる。

昭和期は酒の広告表現も多様化するが美人画からの流れで人気女優・人気男優が広告の一端を担っている。

飲酒に年齢制限が設けられたのは大正11年(1922)の「未成年者飲酒禁止法」からになる。

吹田支部・N K

お知らせ

●吹田市断酒会第38回定時総会

5月27日(土) 19:00~21:00

総合福祉会館

●東大阪断酒会一日研修会(¥切:5/20) 1,500円

5月28日(日) 10:00~15:30

ユトリート東大阪

●豊中市断酒会一日研修会(¥切:5/20) 1,500円

6月4日(日) 10:00~16:00

豊中市地域共生センター

●茨木市断酒会一日研修会(¥切:5/28) 1,500円

6月11日(日) 10:30~16:00

大池コミュニティセンター

●北摂断酒連合会一日研修会

8月13日(日) 12:30~16:00

摂津市コミュニティプラザ